

同朋社会専門委員会

主 査 旦 保 立 子

被曝からいのちを守る宗門としての支援とは
－子ども・妊産婦の視点から－

はじめに

2012年2月23日から開かれた臨時宗議会において、「すべての原発の運転停止と廃炉を通して、原子力発電に依存しない社会の実現を求める」ことが決議され、加えて、「東日本大震災に関し、継続的な支援施策を求める」建議が全会一致で決議されました。

原発廃炉決議については、2011年6月の宗議会で決議には至らなかったことを、一人ひとりが悲しみの涙と共に、悔いねばなりません。このことを心に深く刻み、“1000年先の未来が今の暮らしの続きにある”ことを思い、今回の決議内容の実現に向けて、休止せざる歩みをせねばならないことを確認いたします。

2011年3月11日の東日本大震災によって露わになった福島第一原発のメルトダウンはふるさとの大地を奪い、人のつながりを奪い、そしていのちを奪いました。

当委員会では大地震・大津波の現状もさることながら、福島原発事故に特化して、2011年度は調査・議論を重ねていくことといたしました。

そして、「被曝からいのちを守る宗派としての支援とは－子ども・妊産婦の視点から－」という主たる課題をたてました。

1. しゅくみ（組織）の構築

- ①福島に特化したプロジェクトチームを宗門（宗務所）に設置する。
- ②現地復興支援センターの充実を図る。

上記①、②の具体的内容として、下記の取り組みを行う。

- 人員の補充
- 現地情報への呼応
- 迅速な情報発信
- 全教区とのネットワーク－窓口と人員確保
- 現地各支援団体等とのつながり
- ボランティア委員会との連携

2. 測定・除染・避難に資する継続的支援内容の提示

- ホールボディカウンター等の放射能測定に資する機器の導入
- 避難生活に資する支援
 - ・ 妊産婦をはじめ、子どもの長期休暇・週末の保養受け入れに対する支援
 - ・ 避難された方々への交流・支援
 - ・ 食料品・水等の物的支援

3. 予算措置の恒久化

- 一般会計の中に、継続的に予算計上をする
 - ・ 救援・支援金には限りがあるが、今回の建議にも謳われているように、2012年以降、一定の予算を確保し、実効性のある支援施策を実現する

おわりに

以上の報告について、提案を実行するに当たり、医療や放射線、機器等の専門家や、その使用方法、設置場所などは現場の意見を尊重するとともに、信頼関係の構築を図り、その信頼の中で、福島への支援を行っていきたいと思います。

「すべての原発の運転停止と廃炉を通して、原子力発電に依存しない社会の実現を求める決議」、「東日本大震災に関し、継続的な支援施策を求める建議」という宗議会の方向と願いが公開され、その願いに沿った歩みこそが、今後の同朋会運動を推進する内容となるのではないかと思います。

以 上